

## 新しく矢祭子ども司書になった君たちへ

君たちは、この一年間、十一コマもの講座を、よくぞがんばって受講しましたね。大変だったと思いますが、でも楽しかったでしょう。

これまでは、自分の好きな本、面白そうな本を借りるだけだった図書館には、すごい数の本があり、しかもすべての本が内容によってきちんと分類され、探しやすいなっていることや、本が傷むと図書館の司書さんが丁寧に修復することなどを、しっかりと学びましたね。そればかりでなく、絵本を自分で手づくりしたり、ついせんしたい本のポップを作ったり、田んぼや川に出かけて俳句を詠んだり、楽しい経験をしましたね。

もし君たちが子ども司書の講座を受けなかったら、そういう楽しい学びを何もしないで小学校生活を終えてしまったでしょう。

子どものころは、頭のなかの脳がやわらかくて、どんどん知識や経験したことを記憶していきます。そして、子どものころ脳に刻まれたものは、やがて表面的には忘れられても、家を建てるときの土台のように、その人が長い人生を心豊かに生きていくうえで大切な支えとなるのです。

子ども司書の十一コマもある講座を休むことなく受けたということは、小学校の決められた授業を受けるだけでなく、授業とは違う学びに挑戦したということですね。みんなと違うことに挑戦し、最後まで続け、子ども司書という資格を得たということ、その努力が、そして挑戦するという心の持ち方が、君たちのこれからにとって、とても大事な意味を持ちます。

君たちは、きっとこれまで以上に、本について幅広い知識を持ち、強い興味を抱くようになったことでしょう。本を家族や友達にすすめる紹介の仕方も学びましたね。これからは、そののびやかな気持ちで、本好きな少年少女になってください。

おめでどうの拍手を送ります。

令和五年一月二十一日

矢祭町読書推進応援団

ノンフィクション作家 柳田 邦男